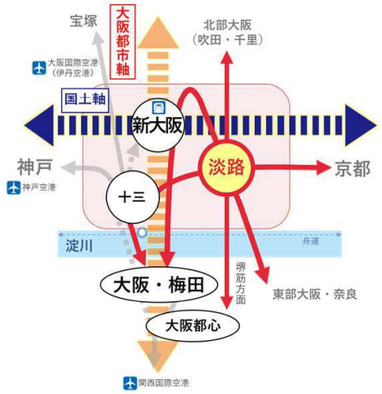
淡路駅エリア計画の骨格

淡路駅エリア計画の作成の目的

淡路駅エリアは、新大阪駅周辺地域のサブ拠点として、また、地域のまちづくりにおける中心的な拠点としての役割を担うエリアである。当エリアの拠点性をさらに向上させるためには、新幹線駅との近接性と４つの鉄道駅（JR淡路駅、阪急淡路駅、崇禅寺駅、柴島駅、以下4駅という。）が集積する交通利便性の高さや、広大な将来開発用地を有するポテンシャルを活かしたまちづくりをすすめる必要がある。

柴島浄水場における機能集約の計画が具体化することから、将来の具体的な開発を見据えて、まちづくり全体の大きな方向性やプロジェクトの検討の方向性を盛り込んだエリア計画を策定し発信することで、良好な都市開発の誘導を図る。

まずは、広大な将来開発用地をはじめとしたエリア内での都市開発のPRを主な目的とするものの、今後、阪急線高架化及び柴島浄水場機能集約の完了時期などを見据えて、検討の深度化を図り、エリア計画を更新し具体的な都市開発を進める。



【まちづくりの動きとエリア計画の関係】

まちづくりの基本的な考え方

○まちづくりの大きなコンセプト

交通利便性の高さと広大な将来開発用地を最大限に活かして、3つの機能（交流促進、交通結節、都市空間）を導入・集積し、拠点性のさらなる向上を図る。また、エリア全体の人の流れを強化して新たな開発と駅周辺のにぎわいとの連携による相乗効果を図り、エリア全体としての価値を高め、来訪者や地域住民にとって魅力ある、駅まち一体となった人中心の居心地の良い空間づくりをめざす。

○都市機能の向上を図るゾーン

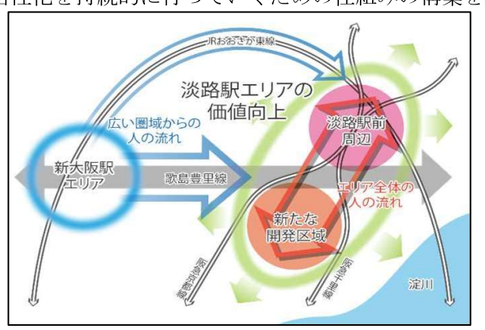
広い圏域からの人の流れと、4駅からの移動利便性を考慮し、4駅および各駅に囲まれた将来開発用地の周辺を都市機能の向上を図るゾーンとする。特に、柴島浄水場開発用地及び阪急高架下空間において重点的に都市機能の向上を図り、新大阪駅エリアとのアクセス機能の強化や広いエリア内の回遊性・一体性を高めるハード整備・ソフト施策を展開して、4駅と連携した駅まち一体空間を形成する。

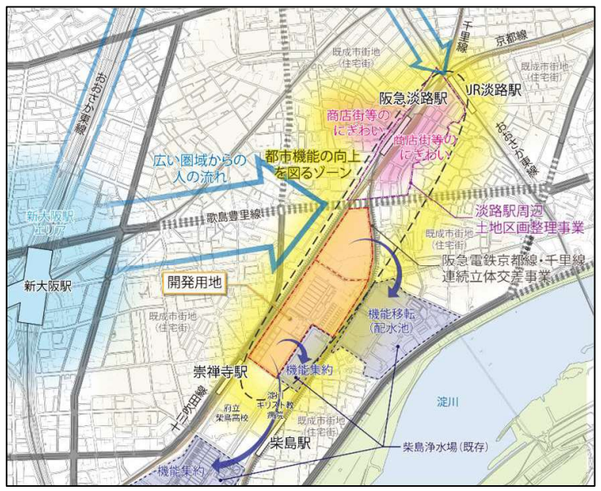
〔駅まち一体空間の空間づくり（ハード整備）〕

4駅および将来開発用地を中心に、歩行者空間の形成・道路交通ネットワークの形成を図り、広大な将来開発用地を活かしたゆとりのある駅まち一体の空間形成と、エリア価値を高める機能の集積を図る。

〔人と人をつなぎエリアの活性化を図る取組み（ソフト施策）〕

ハード整備と連携し、質の高い空間の創出やエリアの活性化を持続的に行っていくための仕組みの構築を図る。





駅まち一体の空間づくり（ハード整備）

○新たな機能集積による拠点性の向上（検討の方向性）

将来開発用地において、多種多様な都市機能を導入し土地を高度利用することで、駅周辺の商店街等のにぎわいと一体となって駅からまちへ人を呼び込み、にぎわいのさらなる創出を図る。さらに、周辺地域に先駆けて社会状況の変化を踏まえた様々な取組み（まちづくりDX・GX、万博レガシーの実装・活用など）を進めることで、エリア全体の価値向上や持続可能なまちづくりの中心的な役割を担う。

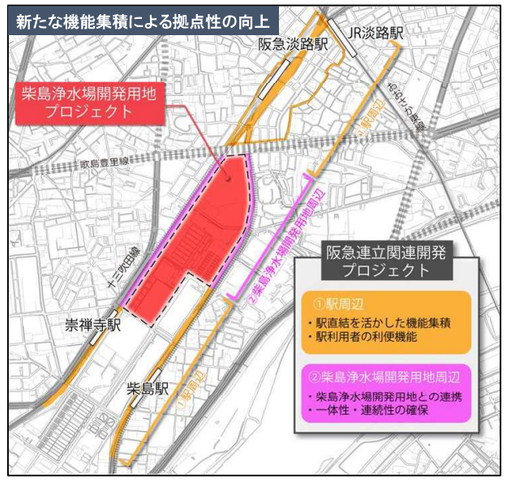
（1）柴島浄水場開発用地プロジェクト

柴島浄水場の機能集約により生まれる将来開発用地（上系用地約12ha）について、多種多様な機能を導入することによって土地の高度利用を図り、駅からまちへ人を呼び込むメインコンテンツとする。

特にグランドレベルは人中心の空間として、歩行者が回遊しやすい、にぎわい・みどり・潤いのあふれたゆとりのある空間を設け、阪急連立関連開発プロジェクトとも連携しながら有効な土地利用と快適な環境づくりを図る。

【空間のゆとりを活かした多種多様な機能導入の例】

- 民間都市開発における大規模集客施設、業務・商業、住宅などの機能
- 人々の交流や防災に資する、広場・滞留空間などのオープンスペース　など



（2）阪急連立関連開発プロジェクト

連続立体交差事業の完了により生まれる高架下空間などにおいて、立地や周辺開発の状況に応じた機能の導入により、エリアの価値向上と地域ニーズへの対応を図る。

○にぎわいを広げるネットワークの形成（検討の方向性）

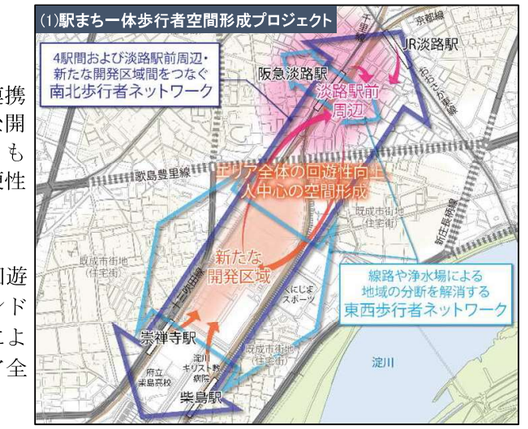
将来開発用地における機能集積や、進行中のハード整備事業と連携しながら、エリア全体の回遊性を向上させることによって、新たな開発区域におけるにぎわいと駅周辺のにぎわいの連携強化を図るとともに、エリア間のネットワークの強化を図ることにより、移動の利便性向上はもとより、エリア全体の魅力向上につなげる。

（1）駅まち一体歩行者空間形成プロジェクト

4駅や、商店街を含む淡路駅周辺、新たな開発区域をつなぎ、回遊性を向上させる歩行者ネットワークの整備を行うとともに、グランドレベルでの公共空間と民間敷地が一体となった人中心の空間形成により、駅からまちへの人の流れや滞留できる空間を生み出し、エリア全体の魅力向上を図る。

【主な検討項目】

- 周辺駅や駅前商店街、将来開発用地を結ぶ動線（南北、東西方向）
- グランドレベルの魅力ある人中心の空間形成　など

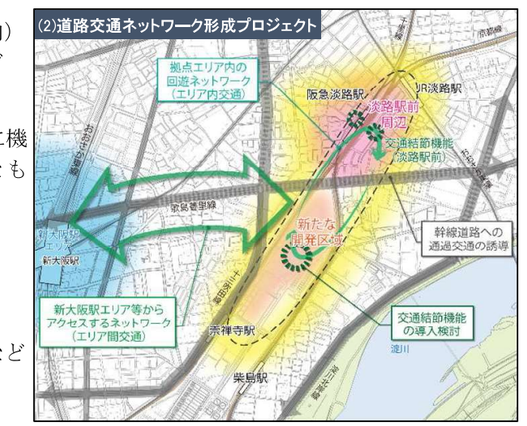


（2）道路交通ネットワーク形成プロジェクト

周辺の主要道路に加え、柴島浄水場開発用地内の道路を一体的に機能させ、エリア内・エリア間におけるアクセス性を充実させるとともに、通過交通を抑制しエリア内の快適性を高める。

【主な検討項目】

- 広大な開発用地を含むエリア内の回遊性向上（エリア内交通）
- 新大阪駅エリア等からのアクセス機能向上（エリア間交通）
- 広域交通および地域交通の拠点としての交通結節機能
- 通過交通の抑制によるエリア内の快適性・安全性の向上　など



人と人をつなぎエリアの活性化を図る取組み（ソフト施策）

駅まち一体の空間づくり（ハード整備）と連携し、快適で質の高い空間の創出やエリアの活性化などを持続的に行っていくため、これまで地域で進められてきた取組みを踏まえながら、多種多様な取組みや実施主体（都市開発におけるエリアマネジメントの導入など）について検討を進める。

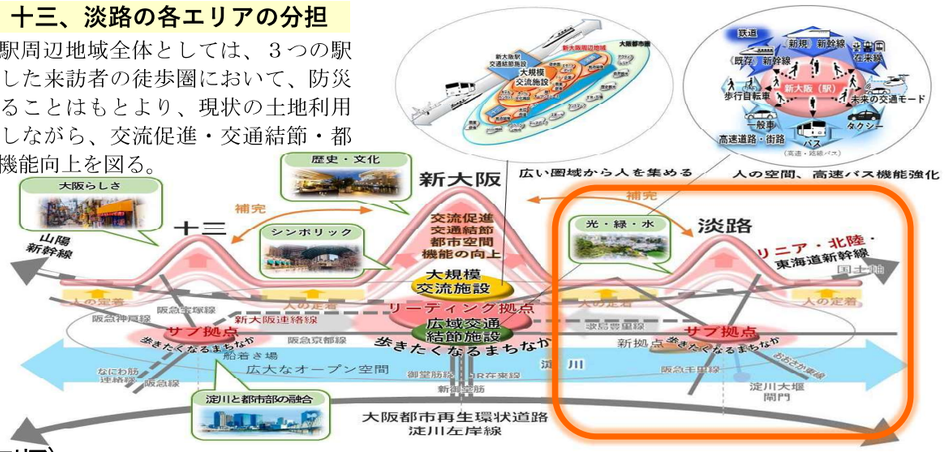
（参考）新大阪駅周辺地域が担うべき役割、導入すべき機能及び地域内の役割分担
※「新大阪駅周辺地域まちづくり方針2022」より抜粋

○新大阪駅周辺地域が担うべき役割

①スーパー・メガリージョンの西の拠点 ②広域交通のハブ拠点 ③世界につながる関西のゲートウェイ

○新大阪、十三、淡路の各エリアの分担

新大阪駅周辺地域全体としては、３つの駅を中心とした来訪者の徒歩圏において、防災性を高めることはもとより、現状の土地利用にも配慮しながら、交流促進・交通結節・都市空間の機能向上を図る。



（新大阪駅エリア）

新幹線駅をはじめとする広域交通の利便性が高いポテンシャルを活かして質の高い機能の集積を図り、３つのエリアのリーディング拠点として、国内外の広域の人の流れを集めて、まちに広げる重要な役割を担う。特に、目的地のシンボルとなる大規模な交流施設の立地、広域交通結節施設として人の空間の拡充や高速バス拠点化、駅からまちへの空間の演出などにより、新大阪駅周辺地域の拠点性の向上をけん引する。

（十三駅エリア・淡路駅エリア）

新大阪駅エリアと多様な交通モードでネットワークさせつつも、懐かしさや、空間的なゆとりなど新大阪にないそれぞれの特色を活かした独自性を持つことにより、新大阪駅エリアの役割や広域的な機能を補完するサブ拠点としての役割を担うことで、３エリアが一体となって魅力の高い拠点を形成する。

（3エリア共通）

各エリアにおいては、駅とまちが一体となった居心地のよい歩きたくなるまちなかの空間の形成を図り、駅からの人の流れ（広域からの交流人口）と、まちからの人の流れ（定着人口）を生み出す。

○導入すべき都市機能の具体的な考え方

交流促進機能

国内外から多様な人と情報が集まり、新しい価値を生み出す。

（ビジネス・産業）
○人材、アイデア、モノの集積
○人と人の関係性の構築
（観光・文化・エンターテインメント）
○関西・西日本の魅力の体感
○ツーリストの快適な滞在
○ナイトアクティビティ　など

例：大規模交流施設、グローバル企業・スタートアップ、サードプレイス、文化・芸術施設、食文化などの体験施設など

交通結節機能

日本・世界と関西をつなぎ、広域の人の流れを集めて、まちへつなげる。

（新大阪駅）
○多様な交通モードの拡充
○人に寄り添ったサービス
（新大阪・十三・淡路）
○回遊性・リダンダンシー
○災害への対応　　など

例：乗換とまちへの人の動線、利用者へのサービス施設、高速バス拠点、新技術の実証、ユニバーサルデザイン

都市空間機能

シンボル性と、懐かしさをもつ、光・緑・水などによる居心地の良い空間形成。

（新大阪駅）
○駅からまちへの演出
○多様な空間
○新しいシンボル
（十三・淡路）
○水辺、なつかしさ　など

例：賑わいや、潤いなど、ホッとするハッとする空間づくり、まちと一体的な水辺の活用

新しいまちづくりの基本的な進め方

・新大阪駅・十三駅・淡路駅の各エリアにおいて、具体化するプロジェクトを取りまとめたエリア計画を定める。
・新たな交通施設や開発ビルなどの都市のハードの整備とともに、活動する人々の満足度の向上などを図るソフト施策を官民一体で取り組むことにより、エリア価値の向上を図る。

（参考）エリア計画の用語について

用語	解説
まちづくりDX・GX	【まちづくりDX（デジタル-トランスフォーメーション）】 豊かな生活、多様な暮らし方を支える「人間中心のまちづくり」の実現のため、基盤となるデータ整備やデジタル技術の活用を進め、都市における新たな価値創出又は課題解決を図ること。具体的には、3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化、デジタル技術を用いた都市空間再編、エリアマネジメントの高度化、データを活用したオープンイノベーションの創出などが挙げられる。 （まちづくりのデジタル・トランスフォーメーション実現ビジョン(ver1.0)（国土交通省）より） 【まちづくりGX（グリーントランスフォーメーション）】 ①気候変動への対応（CO2の吸収、エネルギーの効率化・暑熱対策等）、②生物多様性の確保（生物の生息・生育環境の確保等）、③Well-beingの向上への要請（健康の増進、良好な子育て環境等）に応えるため、都市緑地の多様な機能の発揮及び都市におけるエネルギーの面的利用などの取組みを進めること。 （令和6年度　都市局関係予算決定概要（国土交通省）より）
万博レガシー	舟運や自動運転技術など、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）でのレガシー（遺産）を引き継ぐもの。
エリアマネジメント	地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための住民 ・ 事業主 ・ 地権者などによる主体的な取組み。 （大阪のまちづくりグランドデザイン（大阪府・大阪市・堺市）より）
グランドレベル	街路、公園、広場、民間空地、沿道建物の低層部等、まちなかにおいて歩行者の目線に入る範囲
スーパー・メガリージョン	リニア中央新幹線により、三大都市圏がそれぞれの特色を発揮しつつ一体化することで形成される世界最大級の巨大都市圏。 （大阪のまちづくりグランドデザイン（大阪府・大阪市・堺市）より） ※なお、第三次全国国土形成計画（令和5年7月閣議決定）では、「日本中央回廊」という名称になっている。
サードプレイス	アメリカの社会学者レイ・オルデンバーグが、著書「The Great Place」において、「家庭や職場での役割から解放され、一個人としてくつろげる場」として位置づけた。
リダンダンシー	自然災害等の発生時に、全体の機能不全につながらないように、予め交通ネットワークやライフライン施設を多重化したり、予備手段が用意されている様な性質。 （大阪のまちづくりグランドデザイン（大阪府・大阪市・堺市）より）